

平成25年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立浦和高等学校)

目指す学校像	中高一貫教育校として、浦和中学校と連携を密にし、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
重点目標	1 中高一貫教育校としての更なる充実 2 高い次元におけるバランスのとれた教育の充実 3 国際理解教育と開かれた学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日	平成26年2月13日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育一期生が卒業し、進学実績の面で高い成果をあげた。その成果検証を踏まえて本校の特色化の推進、更なる充実が求められている。 教育活動のあらゆる面において、中学校と高等学校との連結部分に焦点をあて、効果的なつながりを探究し、教育の一貫性をさらに促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の教育活動の成果検証を行い、中高一貫教育校としての更なる充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 中高連携委員会等において6年間の教育活動の成果検証を実施する。 中高合同教科会・研修会を定例化し、6年間を見通した学習計画・授業内容を充実する。 中高相互の授業公開を活性化する。 文化祭、体育祭等の合同行事及び中高合同の部活動を推進する。 中高合同生徒指導部会を効果的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 理念とニーズのバランスの取れた教育ができたか。 中高合同教科会・合同教員研修会の回数。高校へのつなぎ学習の状況。 公開授業参加者数。 中高合同行事・部活動の実施状況。 合同生徒指導部会の実施回数。 	<ol style="list-style-type: none"> 中高一貫教育推進委員会が中心となり、成果検証を行う研修会等を企画・運営した。 中高合同教員研修会を2回開き、さらに11/7の中高合同教育課程委員会で繋ぎ学習の進捗状況を確認した。 中高教員相互授業公開期間の10/11に協調学習を題材に公開授業を開き、外部からも23名の参加があった。 文化祭は5000人以上の来場者があり、体育祭は各ブロックの決起集会が加わり盛況だった。7/1から中学3年生が高校部活動に参加できるようにした。 学期末に計2回開催した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 分掌や委員会については、教育の一貫性が図られたが、教科については、中高接続の在り方に工夫の余地を残した。 中校合同の教科会を定期的に開催できなかった教科もあったが、要因の一つは、授業によって会議に出席できない者がいたためである。中高の時間割編成の段階で中高相互で調整し改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫教育校として、中高の連携は体育祭に見られるように様々な面で前進している。中高6年間を見据えたカリキュラムを計画的に進めていることを評価する。 中高一貫教育を進めるにあたり、各教科について、その連結部分の内容を充実させることは、極めて重要である。中高合同の教科会の定期開催は必須である。 高校の「学校自己評価に関するアンケート」の質問項目に中高一貫の良さを問うものを加え、更なる教育活動の充実に関心してほしい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 内部進学1期生の卒業年度であり、一般生も切磋琢磨して国公立大学112名、私立大学1160名が合格した。 生徒の高いニーズに応えることのできる授業、高い目標に挑戦する生徒を生み出し伸ばす、計画的かつ組織的な進路指導が求められている。 『人間力』を育てる教育活動を推進し、社会のリーダーに必要な規範意識を育てる生徒指導が求められている。 登下校の交通マナーや制服の着こなし等に関する指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の質をさらに高め、進路実績につなげる。 活気ある部活動を推進する。 規律ある学校生活を確立する。 	<ol style="list-style-type: none"> 進学指導重点プロジェクトにより先進校や予備校の指導法に学び授業力の向上を図る。 授業評価アンケート結果を授業改善に活用する。また協調学習の手法を取り入れ授業改善を図る 自習室の整備や進学補習の拡充を図り、学習時間を確保する。 部活動を通して、社会に出て逞しく生き抜いていく力を育成する。 登下校の交通マナー指導や身だしなみ指導(スカート丈等)の徹底を図り、規範意識を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 大学入試センターの受験率・得点状況。国公立大学や難関大学合格者数。 授業評価アンケート結果の向上。 個別面談や進路ガイダンス、課業日及び長期休業中の進学補習等の実施回数。 部活動の参加率や大会の成績。 交通マナーの遵守及び制服の着こなし状況。 	<ol style="list-style-type: none"> センター受験者は316名(98.8%)であり得点平均も県立高校の上位であった。 全教員の約82%が良い評価を得た。(5段階評価の4以上) 2回の面談週間で個別面談を実施。9/14に1年に卒業生講演会を10/23に2年希望者に県立大学教授による看護・医療系模擬講義を行った。夏季講習は60講座 約2000名が受講した。 部活動参加率は約9割。 サッカー部が全国選手権大会ベスト16、インターアクト部が全国ディベート大会3位、放送部が全国大会に出場した。 10/1~10/7のPTAと連携した登校指導など組織的な指導により着実に効果がでている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道をモットーにして、学習・進学指導、部活動・生徒指導を積極的に行った。其々の指導の成果は確実に表れているが、文と武の両立が困難になりつつある者もいる。 生徒に高い志を持たせ、文武両面にわたり、さらなる向上を目指させる一方で、学校生活に改善の余地がある者に対し、指導や支援を組織的に行う必要がある。学力向上委員会を中心に策を講じて解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学実績が着実に上がっていることを評価する。生徒に高い志を持たせ、難関大学への挑戦をさらに一層進めるべきである。 キャリア教育を充実させ、生徒に職業観に立った将来目標を持たせてもらいたい。卒業生の「生きた声」を聞ける機会を増やしてほしい。 サッカー部の全国選手権大会での活躍は非常に高く評価できる。部活動が活発に行われることを望む。 2学期の保護者と連携した登校・服装指導はとても効果があった。身だしなみ指導(スカート丈等)については、来年度も継続的にやっていくことを望む。
3	<ul style="list-style-type: none"> 高い知性と豊かな感性を育て、国際社会でリーダーとして活躍する生徒育成のため、双方向の国際理解教育を推進している。 ホームページの充実をはじめ、公開授業、学校説明会等様々な機会を活用し、本校の具体的な取組の情報提供を行う。 土曜公開授業を通して地域のニーズに応じた開かれた学校づくりが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育に積極的に取り組む。 開かれた学校づくりを推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 海外研修派遣事業や留学生受け入れ事業、海外修学旅行を推進する。 HPの充実を努め、生徒・保護者・地域に本校の取組を随時発信する。 学校説明会の実施方法を工夫し、入学希望者に対して、具体的な情報提供が行えるようにする。 土曜公開授業を通して、学校と地域の相互理解を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 国際交流等の実施回数とその内容。 ホームページの更新回数及び閲覧回数。 学校説明会や公開授業の実施回数及び参加者数の増加。 土曜公開授業参加者数と参加者アンケートの満足度。 	<ol style="list-style-type: none"> 留学生2名を派遣し1名を受入れた。シンガポール・マレーシアへの海外修学旅行は成功し、生徒の国際理解を深めた。 11月にHPをリニューアルし、2/13現在アクセス69111件、1日平均約500件。市高トップページの更新175回。 8/17 18 学校説明会 2827名。10/12 10/26 11/9 公開授業参加者数632名。 土曜公開授業を15回実施(2/13現在)。中学生・保護者889名、本校保護者39名。参加者アンケート概ね良好。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育は、取組内容の充実度を高め、今後も効果的な指導を継続して行う。スーパーグローバルハイスクール(グローバル化に対する文科省推進事業)に応募した。指定を受けた場合は、事業推進が課題になるが、国際交流委員会等を中心に取組む。 開かれた学校づくりは、市内外の中学生と保護者に対する情報発信をさらに工夫し、充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な国際理解教育の取組を高く評価する。国際社会で活躍するリーダーを育成するためには、実際に国際社会で活躍する人々と交流する機会を設定するなどの事業推進が必要であると考えられる。 スーパーグローバルハイスクール事業指定に大いに期待する。 ホームページのリニューアルと積極的な更新は、開かれた学校づくりを強く推進するものであり、高く評価する。今後も継続してもらいたい。